

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年2月27日
札幌市立新川中学校

1 本年度の重点目標

かかわるすべての人にとっての居場所となる学校創り

2 本年度の経営方針

- ①学ぶ力の育成に向けた教育活動－課題探究的学習の工夫、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、ICTを活用した学習活動の充実
 ②「豊かな心」を培う－学級・学年内での一人一人の居場所づくり、日常的な相談活動の充実、校内フリースクールの持続的な運営、いじめの早期発見と未然防止の取組、道徳の時間の充実
 ③「信頼される学校」の創造－教師力の向上、安全・安心な学校、学校公開、学校HPやメールの活用
 ④新川中らしい教育活動の推進－学校全体での全生徒の見守り、小学校や地域との連携

3 自己評価に対する学校関係者評価

分野	学校評価アンケートの設問	評価項目	自己評価		学校関係者評価		
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
目指す子ども像	アンケート全体を評価するため設問なし	1. 自ら進んで勉強する子ども、学び続ける生徒 2. 心身ともに健やかな子ども、自ら鍛え心身ともにたくましい生徒 3. 最後までやり抜く子ども、責任感と実行力のある生徒 4. 思いやりのある子ども、命を大切にす生徒	A	本校の生徒の良さを生かした「協働」を通して、多様性を尊重し、思いやりの心を育む教育活動の推進を継続する。また、主体的に学ぶ力と課題解決能力育成のために校内研修等を通して研究を深める。	A	A	
学校関係者評価委員による意見		学校の教育活動に地域との連携を生かして活用しているところや、生徒の成長のために取り組む姿勢は評価に値する。					
知・徳・体の調和のとれた育ち	学ぶ力	設問6	学力向上のための取組	A	今年度より校内研修会における研究テーマを「課題探究的な学習を取り入れた授業の創造」とし、研究と修養に努めた成果が表れている。次年度はAARサイクルで捉え直した「課題探究的な学習」をさらに推進し、個別探究と協働探究の一体的な充実を図る。	A	A
		設問7	授業力向上のための取組	A		A	A
	豊かな心	設問10 設問16 (保護者・教職員) 設問17	多様性の尊重 思いやりの心の育成	A	小規模校であることの強みを生かした「学校全体での全生徒の見守り」を大切にす。また、生徒自身に物事の本質や意義を考えさせる「新川ルール」により生徒の自主性・自律心を育む。	A	A
			社会性・人間性の向上を目指した教育活動	A		A	A
健やかな体	設問11 設問5(保護者、教職員)	運動への関心・習慣的に運動する環境作り 保健・食指導の充実	A	保健体育科の授業や行事等を通して運動への関心を喚起し、習慣的に運動する素地を養う。また、講演会などを通して性指導や食育の充実を図る。	A	A	
学校関係者評価委員による意見		学力向上とともに、人を思いやる心を育てる取組を行っていることが素晴らしく評価に値する。					
札幌らしい特色ある学校教育の推進	設問9(生徒)	読書・雪に親しむ教育活動の推進	A	司書の活用により学校図書館の機能と役割を充実させる。「雪に親しむ活動」や「雪国札幌を考える授業」を通して雪と共生する心を培う。	A	A	
子どもの発達への支援	設問14	アンケートの活用 教育相談活動 スクールカウンセラーとの連携	A	今年度より導入した「シャボン」による生徒の心や身体の状態の把握や生活アンケート等を活用した学級ごとの相談活動を継続し、いじめ等の未然防止を図るとともに、困り感を抱える生徒の支援を行う。また、SCとの連携を密にし、専門的な助言をもとにした支援活動を行う。	A	A	
信頼される学校の創造	設問15 設問20(保護者、教職員)	感染症対策 危機管理 適切な情報発信	A	感染症対策に留意し、学級閉鎖等が発生した場合の危機管理体制を構築する。連絡アプリ「すぐる」や学校HPを通して適切に情報発信を行う。	A	A	
教科等の枠組みを超えた教育	設問8 設問13	総合的な学習の時間の取組 進路探究学習(キャリア教育)の推進	A	総合的な学習の時間の取組を通して体験的な学びの機会を作るとともに、情報活用能力や課題解決能力の育成を図る。また、教育活動全般を通して進路探究学習を推進する。	A	A	
小中一貫した教育の推進	設問20(教職員)	校種間連携 9年間の連続性のある教育	B	今年度より教研が小中一貫一校同士での開催となり、充実した研修会とすることができた。また、生徒会活動や総合での取組において小中の交流を図ることができた。次年度以降さらにどのように発展させていくかが課題となる。	A	A	
ICTを活用した教育の推進	設問18	危機管理におけるGIGAタブレットの活用 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	B	様々な場面でICT活用は進んでいるが、授業や校務におけるICTの有効的な活用や汎用化についてさらに研修を深める必要がある。	A	A	
学校関係者評価委員による意見		忙しい中で様々な教育活動に取り組んでいる。読書は人を育てるのに有効であるため、その活動を続けていることも評価に値する。					